

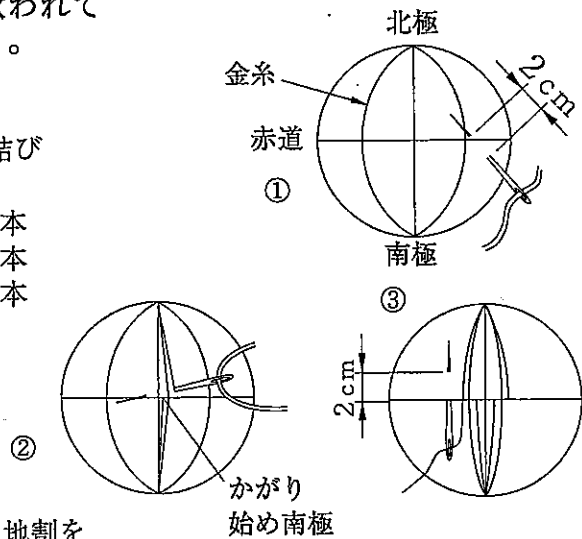
あめ玉のてまり

◎室町時代から江戸時代・現代までてまり歌にも歌われて遊ばれた手まりをあなたの手で作ってみましょう。

- ① 土台作り、地割の出来上がったものです。
かがり糸（円周の6倍の長さ）を針に通し、糸の端に結び玉を作っておきます。

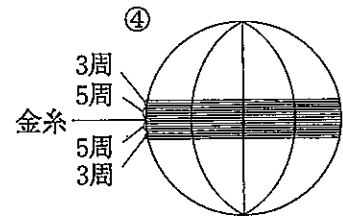
赤土台：都てまり糸 黄色（10）4本、緑色（15）4本
白土台：都てまり糸 赤色（5）4本、黄色（10）4本
黒土台：都てまり糸 赤色（5）4本、黄色（10）4本

- ② 赤道の金糸より、2cm位下から赤道の金糸の上に針を出し南極側へ戻して巻きます。



- ③ 赤道、南極、赤道、北極を通して1周し、さらに4周。地割をくぐり、反対側に出し、金糸の地割の両側を5周したら、赤道より北極の方へ2cm位戻してから糸を切ります。

- ④ 同じ要領で赤道の上に5周、下を5周巻き、さらに上下を3周ずつ巻きます。

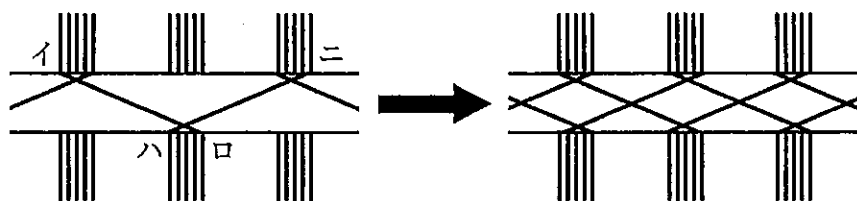


赤道の色

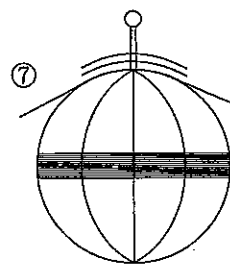
赤土台：都てまり糸 紫（18）2本、ピンク（4）1本
白土台：都てまり糸 紫（18）2本、ピンク（4）1本
黒土台：都てまり糸 緑（14）2本、空色（7）1本

} 円周の7倍

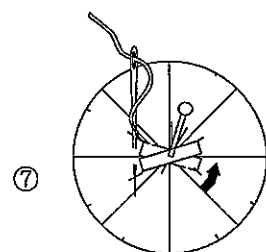
- ⑤ 金糸（都手まり）を円周の3.5倍の長さに切り、イから出してロ⇒ハと千鳥かがりで1周し、残っているところも同様に千鳥かがりをします。



- ⑥ 北極から赤道までの長さの紙テープを切り、その1/3を北極に合わせて待ち針で止めます。



- ⑦ 円周の3倍の金糸で紙テープの端に針を出しテープの下を通し、反対側のテープの端から針を入れ、テープを回して針を出しこれを繰り返して松葉かがりをします。



- ⑧ 最後に北極の金糸全部をまとめて一針で止めて遠くへ出して金糸を切ります。

★南極側も同様に松葉かがりをして出来上がりです